

朝の会・帰りの会の運営

～毎日の活動プログラムで児童生徒を育てる～

埼玉県教育局東部教育事務所

小・中学校の学級で毎日行われる朝の会と帰りの会。それぞれが短時間の内に行われるものですが、日々の活動プログラムの積み重ねで児童生徒に「話す力」や「自主的に活動する力」などを身に付けさせるといった学級経営上の大切な役割を担っています。

毎日の朝の会・帰りの会が、単に連絡や反省に終始したものにはなってはいないでしょうか。時間が短いため、どうしても連絡や学級担任からの指示・注意など事務的な活動に陥りがちです。ここでは、朝の会・帰りの会の教育的意義を確認し、より効果的な活動にしていくための必要事項について考えてみましょう。



1 朝の会・帰りの会の意義

(1) 朝の会

朝の会…今日一日の学校・学級生活を見通すための会。一日の予定や学習内容を確認し、体調のチェックを行い、所属集団（学級、児童会・生徒会、クラブ、部活動など）や個人（自分や仲間）としてのめあてを考えることで一日の見通しをもたせる。

毎朝、どの児童生徒も今日一日の期待をもって登校してきます。児童生徒同士の出会い、学級担任と児童生徒との一日の出会いが朝の会です。気持ちのよい一日のスタートが切れるよう心掛けましょう。

(2) 帰りの会

帰りの会…今日一日の学校・学級生活を締めくくる会。今日がどのような一日だったか、所属集団（学級、児童会・生徒会、クラブ、部活動など）や個人（自分や仲間）としての一日を振り返り、明日以降へのめあてをもたせる。

児童生徒が一日の授業を終えた安堵感の中で、その日の反省や連絡などを行う時間です。一人一人の心の安定を図り、明日への希望につなげていく配慮が大切です。

朝の会、帰りの会は、短時間ですが、学級経営や学級活動、児童生徒を生かす係活動を考える上からも大切な時間です。運営に当たっては、児童生徒の実態を考えて、ねらいを明らかにし、毎日の活動を継続することによって、学級生活の中に習慣化が図られるようにします。

2 朝の会・帰りの会の活動プログラム

(1) 会の進行役

毎日行われる朝の会・帰りの会の進行は、日直（日番）等による輪番制の当番活動として、児童生徒全員が経験できるようにすることが望ましい（学級生活の円滑な運営を目指す当番活動の視点）と考えられます。

会の次第を、教室の壁面（前面）に掲示したり、学級日誌に貼付（表紙の裏面等に貼り付ける）・添付（しおり状にして日誌に挟んでおく）したりしておくと、日ごとの当番の児童生徒がスムーズに進行することができます。



(2) 会の次第 (プログラムの基本)

① 朝の会

はじめの言葉は、日直等の進行役の児童生徒により、全員が着席した状態で始め、清々しい気分で一日の学校生活をスタートできるように、元気にあいさつを交わします。

出席確認・健康観察では、児童生徒一人一人の名前を呼び、体調を把握するとともに、表情などからどのような様子で登校したのかを確認します(学年によっては、保健委員等による健康観察も考えられる)。

今日の予定では、担任から伝えられている今日一日の日課・予定を発表して全員で確認します。

連絡では、学年の発達段階によって係や委員会などから連絡する時間を設け、児童生徒が主体的に活動できるようにします。

今日の目標等の発表を設定すると、帰りの会でその振り返りを発表することができます。

先生の話は、生き生きとした一日の出発を促す話題を簡潔にわかりやすく短時間でまとめます。一日の予定や、今日の日の持つ意味を考えさせ、担任として、児童生徒に今日一日をどのように過ごしてもらいたいのか、一日の生活のめあてを与えることができるようにします。

おわりの言葉は、これから始まる授業その他の教育活動への取りかかりの合図でもあります。意欲付けになるように気合いを入れましょう。

② 帰りの会

はじめの言葉は、進行役の児童生徒(日直等)が、授業や清掃などの当番活動、係活動などが終了したことを見届け、学級の児童生徒全員の集合を確認し、帰りの会を開始を合図するものです。

一日の反省は、朝の会での「今日の目標」や「先生の話」を受けて、今日一日を個人やグループなどで振り返り、感想や評価を発表し合うものです。翌日の学校生活につながる発表ができるように導くことが大切です。

明日の予定、連絡は、翌日以降の学校・学年・学級の行事予定や授業(各教科等)の学習内容、課題・宿題、準備する物などを確認する場です。係活動や当番活動、児童・生徒会活動の委員などにより、児童生徒が自主的に連絡できる体制を整えましょう。

先生の話は、朝の会で児童生徒に投げ掛けた一日の生活のめあてについての評価を中心に話します。担任から見て、あるいは他の教員から聞いて頑張っていたことを称賛するとともに、課題とされる点は指摘し、明日以降の児童生徒の生活への期待を述べましょう。児童生徒一人一人が明日に希望がもてるよう、ポジティブな表現を心掛けます。

【朝の会の次第例】

朝の会

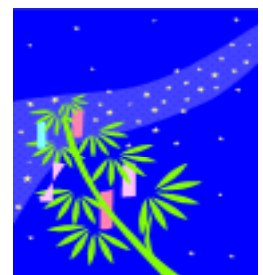
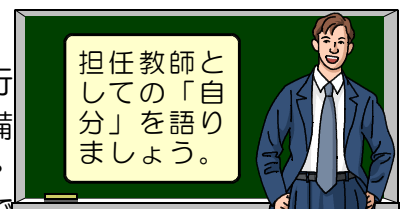
- 1 はじめの言葉
(あいさつ)
- 2 出席確認・健康観察
- 3 今日の予定
- 4 連絡
～係・委員会等から～
- 5 今日の目標
- 6 先生のお話
- 7 おわりの言葉



【帰りの会の次第例】

帰りの会

- 1 はじめの言葉
- 2 一日の反省
- 3 明日の予定(準備)
- 4 連絡
～係・委員会等から～
- 5 先生のお話
- 6 おわりの言葉
(あいさつ)



(3) 次第の一工夫（朝の会・帰りの会を充実させるために）

朝の会・帰りの会の基本的なプログラム（進行や次第）に、一工夫加えることで、さらに内容の充実を図ることができます。一般的に小・中学校で見られる工夫を以下に示します。

① 学級の歌

学級活動で決めた「学級の歌」や「今月（週）の歌」、合唱コンクールのために選曲した合唱曲などを全員で歌唱し、学級の連帯感を高めるもの。朝の会・帰りの会、いずれでも効果的。



② 群読（音読）

詩や短文の文章作品などを取り上げ、児童生徒全員で音読するもの。「学級の歌」と同様の効果がある。



③ 一日の目標や振り返り

朝の会では今日一日の目標を、帰りの会では今日一日の振り返りを、それぞれ発表するもの。進行役が日直であれば日直としての立場（個人）で述べさせてもよいし、グループ（生活班など）ごとに数分の話合いの時間を設け、輪番制で代表者に発表させるのもよい。仲間の話をよく聞こうとする態度が身に身に付き、グループの連帯意識も強まる。



児童生徒が「自分」を語る場面を設けましょう。

④ 一分間スピーチ

毎日一人ずつ、自分が今、頑張っていることや自分の夢、愛読書や趣味など、テーマを決めて1分間程度のスピーチを行うもの。集団の前で自分の思いや考えを発表する機会を設けることで、人前で話すことが苦手な児童生徒にも自信を付けることができる。学級内で互いを認め合おうとする雰囲気もできる。



3 朝の会・帰りの会の指導上の留意点

朝の会・帰りの会を行う上で考えられる指導上の留意点のうち、一般的なものを以下に挙げておきます。



- 朝の会は、授業が始まるまでの限られた時間で行うもの。内容が多い日もあるが、第1校時の授業に支障をきたすことがないように注意する。
- 出席確認・健康観察は、必ず学級担任が一人一人の顔を見ながら呼名し、表情や顔色、返事の声等に気を配る。
- 司会など進行役は可能な限り児童生徒が行い、輪番制等により、普段発言の少ない児童生徒にも発言の場を与えるようにする。
- 気持ちよく朝の会・帰りの会を閉じられるようにするため、よほどの重要性・緊急性がない限り、会の中での全体や個人への叱責は控える。
※叱責・注意をしなければならない場面があれば、その場で行う。どうしても児童生徒全員に考えさせなければならない状況があった場合のみ、会の時間を使うことも考えられるが、その際は、児童生徒が朝の会後の授業や、帰りの会後の放課後の活動や帰宅後の生活に引きずらないよう配慮することが大切である。
(朝の会と帰りの会は、一日の学校生活の始まりと締めくくりであり、児童生徒一人一人が「今日も一日頑張ろう」「明日も頑張ろう」という気持ちにさせるための教育活動である。)
- 常に新鮮な企画をし、マンネリズムに陥らないようにする。
- 学級活動との関連を図りながら運営を進める。
(計画委員会からの学級会の連絡、学級会で事前に話しておきたい内容や、時間が足りずに話合いが終わらなかった内容、決まったことの準備やまとめなど)

